

令和2年度 第2回 新潟県メディア連携協議会 議事要旨

開催日時：令和3年3月2日（火） 10：30～12：00

場 所：Web会議（teams）で開催

出席者：新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、NCTエヌ・シー・ティ、JCV上越ケーブルビジョン、エフエムとおかまち、エフエム雪国、FMながおか、エフエム魚沼、エフエムしばた
国土交通省北陸地方整備局、気象庁新潟地方气象台、新潟県

議事次第： 1. 開会
2. 情報共有
3. 意見交換
4. 閉会

○意見交換

メディアからの主な発言

- 情報の発信側の行政とメディアが齟齬なく、スムーズに連携を取れるよう、避難行動につながる分かりやすい防災（水害・土砂災害）用語の勉強会を事前に行うことは、非常に有意義であると思うので是非参加したい。
- 災害時に記者会見を行う場合の形式・時間・場所等を整理してほしい。
- 各地のライブカメラはテレビ・ネットメディアにおいて貴重なツールになっているため、スムーズな活用に向け、引き続き連携していきたい。
- YouTube配信は、平常時の各河川でピックアップされた箇所の映像を順繰りに流す運用から、災害時には警戒を要する特定の河川の映像を連続して流すような運用体制に切り替えることを検討してほしい。
- 様々な情報発信の“サイト名”で言われると検索に時間を要するため、“川の防災情報からアクセスできる”などといった表現の仕方を工夫すれば、ホームページを活用しやすくなる。

- 各事務所の Twitter の情報発信について、まとめて確認ができるような運用体制を検討してほしい。
- 各地のライブカメラの画質向上と夜間も見られるようにしてほしい。
- 川の防災情報ホームページを災害時に円滑に活用するためには、普段から使い慣れておくことが必要。
- 気象台と整備局の合同記者会見は、オンラインでの配信等があれば活用しやすい。
- 危機感を目の情報だけでなく、“耳の情報”として伝わるような工夫が必要。
- マイ・タイムラインの取組は、情報収集の世代間ギャップという課題に対し、非常に有効であると考えます。メディアとしても取り組んでいきたい。
- 町内会の防災担当や学校の先生などが、国交省をはじめとする防災情報の発信サイトから情報を収集できるようになってくれば、地域の方にも情報が伝わりやすい状況になると思う。